

## 公文書館だより

第18号 平成19年9月30日

通常展示

## 資料にみる神奈川の歴史

開催期間 平成十九年四月二八日～八月二二日

「資料にみる神奈川の歴史」も今年で八回目を迎えました。今年度は

昭和の日が制定されたことから展示室の一角に「昭和史コーナー」を設置しました。新たな視点から「昭和」を捉え直すきっかけになれば幸いです。その他の展示ですが、「古代史に

新たな資料を」の三年目として「神奈川の旧石器・縄文・弥生の分布図」を作成しました。前回の「神奈川の平安仏」、前々回の「神奈川の古墳時代」に続く企画ですが、いかがでしたでしょうか。また、中世では、喜連川(きつれがわ)文書のひとつ「前將軍足利義政御内書」の表装前の写真を出展しました。切り封の様子がよくわかりいただけだと思います。

今年度の近世は「検地」に重点をおいてみました。『徳川幕府県治要略』から「検地要具之図」と、神奈川県内の新田分布図を新たに展示しました。今後も近世の代表的な文書とともに、このような小特集を組ん



通常展示ポスター

でいきたいと思っています。

近現代では、「昭和史コーナー」で神奈川のトピックス的な資料を展示することにより、戦後の混乱期から復興・発展・新たな問題の発生へと、県行政の大まかな流れを理解していただくことを狙いとしました。見学の方々からは「コーナーが設置されたアクセントがついて」、「通常展示でもコーナーを設置したり、工夫をすれば興味のある内容になると思いました」などのご意見をいただきました。これを機会にトピックス的なコーナーの設置や、展示方法の工夫を今一度考えたいと思っています。

また、神奈川県誕生の資料を展示しましたが、現在の神奈川県域が明治初期には伊豆を含む足柄県と、神奈川県に分かれていたことに驚かれた方も多かったようです。

一方、今回の展示でもう一つみなさんに見ていただきたい資料は、「連合軍指令綴」です。この資料は津久井教育事務所との統合に伴い、昨年度当館に移管されたものです。内容は連合軍による教育現場への指令を綴ったもので、歴史的にも大変重要なものです。このような資料は毎年移管されるわけではありませんが、これからも、見学された方々に興味を持っていただける資料の発掘・紹介に努めていきたいと思っています。



連合軍指令綴

ミニ展示を終えて

## 「二俣川村」の誕生

開催期間 平成十九年七月十三日～八月三十一日

二俣川の地名は、すでに鎌倉時代の『吾妻鑑』にも見られ、村そのものの誕生も江戸時代にまでさかのぼりますが、今回のミニ展示では、明治二二（一八八九）年の「市制・町村制」施行から、昭和一四（一九三九）年の横浜市編入までの資料を紹介しました。

「市制・町村制」施行に際し、県は、二俣川村・上星川村・川島村・三反田村・市野沢村・今井村・小高新田の七ヶ村での合併案を提示しました。これに対し、上星川・川島の両村は橘樹郡仏向・坂本両村との合併を主張、これに反発した二俣川村は一村での独立を請願しました。しかしこれは認められず、また三反田村の反発もありましたが、最終的には二俣川村・三反田村・市野沢村・今井村・小高新田の五ヶ村が合併し、新生「二俣川村」が誕生しました。一方、上星川・川島両村が合併して西谷村となり、二俣川・西谷両村は



昭和10年の「二俣川村」

組合村を形成しました。ところが、この組合村は組合費の負担をめぐりたびたび対立したようです。この二俣川村も横浜市域拡大の流れの中で、昭和一四（一九三九）年四月一日に横浜市に編入され、合併村を分離し、保土ヶ谷区二俣川町となりました。当館には今回紹介した資料の他にも二俣川に関する中世・近世の資料を所蔵していますので、ぜひご利用ください。

ミニ展示を終えて

## 徳川慶喜の書簡

開催期間 平成十九年五月一〇日～六月三〇日

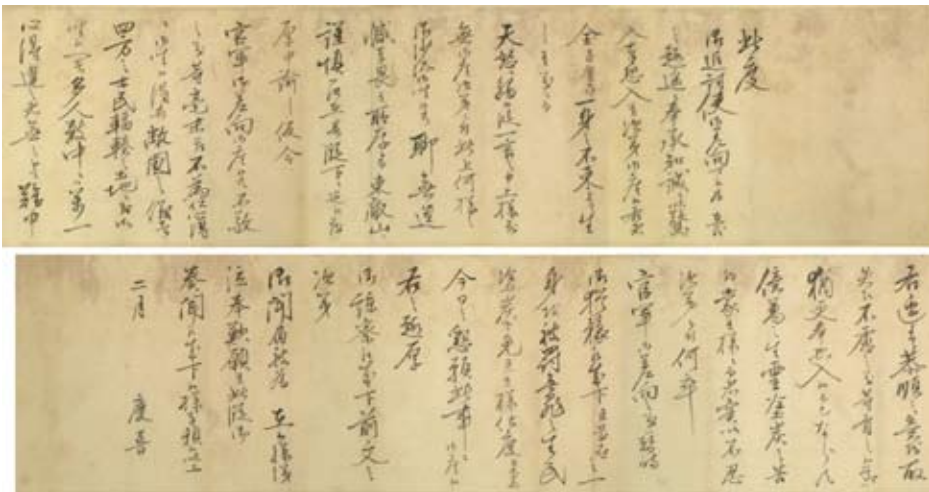
平成十九年度第一回のミニ展示は、江戸幕府一五代将軍 徳川慶喜の書簡を紹介しました。

幕末の混迷する時代に将軍となった慶喜は、王政復古を嚆矢とする慶応四年（一八六八）一月の鳥羽・伏見の戦いに敗れます。江戸へと逃げ帰った慶喜に対して、朝廷は追討令を発し、有栖川宮熾仁親王を東征大総督とした追討軍を編成しました。

慶喜は江戸へ戻るとすぐに隠居を表明し、朝廷の許しを乞うための働きかけを始めます。

その結果、四月に死一等を減じられた慶喜は、水戸での塾居謹慎を命じられ江戸を去りました。

この書簡は、こうした中の慶応四年二月、慶喜が朝廷に対し、自身への追討軍派遣の猶予を願い出たものです。宛所は記されていませんが、朝廷に近い人物に出されたものであると考えられます。



「徳川慶喜書簡」 山口コレクション（寄贈）

## 三条実美の書簡

開催期間 平成十九年九月十三日～十月三十一日

平成一九年度三回目のミニ展示では、明治維新の担い手であり、明治政府の要人であった三条実美の書簡を紹介しました。

三条は江戸時代末期に京都で生まれました。安政元（一八五四）年、一八歳で三家家を継ぎ、従五位上侍従となりました。

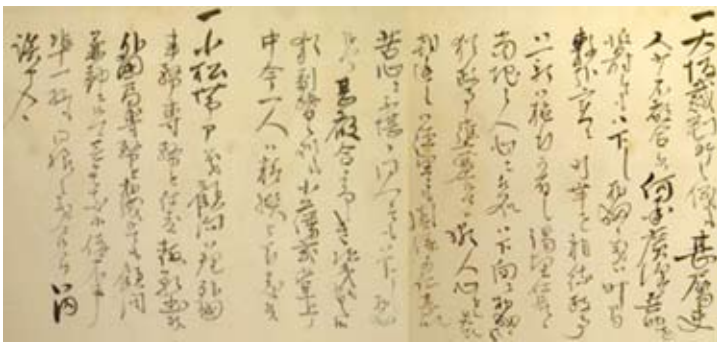
安政五年に、日米修好通商条約の調印問題で朝廷と幕府の衝突があり、大老井伊直弼の弾圧により、父実万が官位を辞職し、出家しました。実美も父の立場を引継ぎ、尊王攘夷派の公卿として活動します。

文久二年、議奏となり長州藩と協力して倒幕尊王攘夷派公卿の中心を担うようになります。翌年、第一四代将軍徳川家茂の上洛の際御用掛を勤めますが、八月一日の政変により京都を追放され、長州（現山口県）に下りました。その後、大宰府（現福岡県太宰府市）に移され、ここで王政復古を迎えました。

慶応三年一二月、帰京し岩倉具視らと共に議定に任ぜられました。その後、新政府の副総裁兼事務総督などを歴任、明治二年に太政官の設置に伴い右大臣に、明治四年には太政大臣となりました。

本書間は、慶応四（一八六八）年の二月三日に、新政府の副総裁であった

た岩倉具視に宛てて書かれたものです。実美はこの時新政府の副総裁であり、このような地位を反映してか書簡の内容も多岐に渡り、新政府内の人事や、天皇の養育方針などについて意見を交換しています。この書簡から、明治初年の新政府部内での実美の立場と、当時の政権構想の一端がうかがえます。



「岩倉具視宛三条実美書簡」  
山口コレクション（寄贈）

## 所蔵資料紹介

### ◆歴史的公文書

「昭和二十八年年度 開国百年祭（一）」「昭和二十九年年度 開国百年祭（二）」（BH6-5、6）

二〇〇九年横浜は開港一五〇周年を迎えます。すでにさまざまなメディアを通して準備されているのが伝わってきます。ここで紹介するのは今から五三年前、神奈川県が開国百年を迎えたときの賑わいを綴った二冊の公文書です。

開国は、嘉永六年（一八五三）の夏四隻の軍艦を率いたペリー提督が浦賀沖に現れたところから始まり、翌安政元年再度来日したペリーによって日米和親条約（神奈川条約）が締結され、下田と箱館が開港、日本は開国します。ついで下田のアメリカ総領事ハリスは幕府に通商条約の締結を迫ります。その結果安政五年（一八五八）大老井伊直弼は勅許を得ないまま日米修好通商条約を調印、続いてイギリス、フランス、オランダ、ロシアと安政の五カ国条約を締結します。こうして翌安政六年（一八五九）六月二日小さな漁村横浜が開港します。

この公文書は、昭和二十九年（一九五四）四月五日（神奈川条約締結記念日）、旧暦三月三日）から六月二日

（開港記念日）までの間に行われた「開国百年祭」の記念式典をはじめ井伊掃部頭銅像復元の除幕式など二一の行事の計画案の打ち合わせから実施までを綴ったものです。

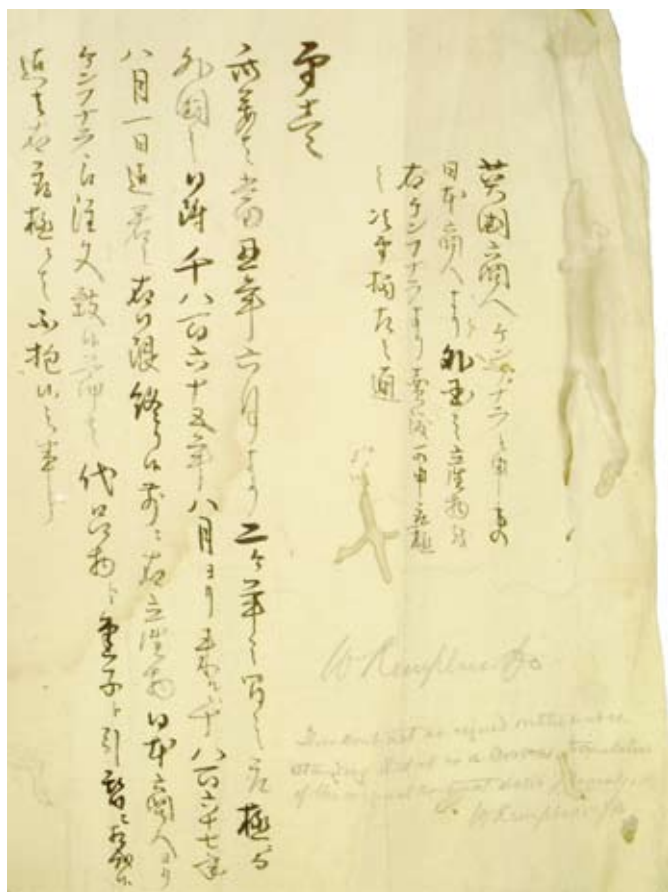
県庁本庁舎など県内十一ヶ所に記念碑の建立がこのとき行われたことが改めて分かります。また計画が進行する過程で横浜開港の恩人として佐藤政養や佐久間象山、岩瀬忠震らの名前が浮上してくるのは、歴史の評価が定着していなかったことを示しています。なお前年に行われた開国百年祭記念都民の集いや下田の黒船祭、神戸のみなど祭の復命書も添付されています。



●古文書資料

●慶応元年外国貿易契約書

本書は、安政六年五月二十八日幕府が神奈川・長崎・箱館を開港し英・仏・米・露の五ヶ国に自由貿易を許可したことに始まった英国商人と日本人との貿易の契約書原本です。西洋の産物購入について日本人伊豆屋徳三郎が、英国商人ケンフナラと取極めた九条からなる日本文契約書で、ケンフナラの自筆書名が見られます。外国商品の買い求めには、「御禁制之品は相除」く、と第四条に規定しています。伊豆屋徳三郎は、豆洲子浦の出身で横浜町五丁目弁天通南側阿波屋万太夫上知跡地



に文久二年九月開業しました。子の富太郎は、慶応元年幕府に軍資金として金三三〇両、翌年金五〇両と八ポンド鉄造大砲式挺を寄付しています。同年太田新田埋め立て地内に千百三十五坪余の地所を借用し地代前金として八百五十一両余を支払う富裕商人でした。ケンフナラは、文久元年頃出版「横浜開港便覧」外国商館に「式拾五番ケンフナラ」とあります。倉庫を配置したケンフナラの住宅が五雲亭貞秀「外国人住宅図」に見られ、生糸買入商として著名な商館の一つであったと言われています。伊豆屋徳三郎の子孫池津福治郎氏から寄贈された池津珍蔵関係資料郡の一つです。

※展示のご案内

★企画展示

- ・「かながわの福祉」  
九月二七日(木)～十一月二五日(日)
- ・「かながわの道」  
一月二四日(木)～三月九日(日)

★ミニ展示

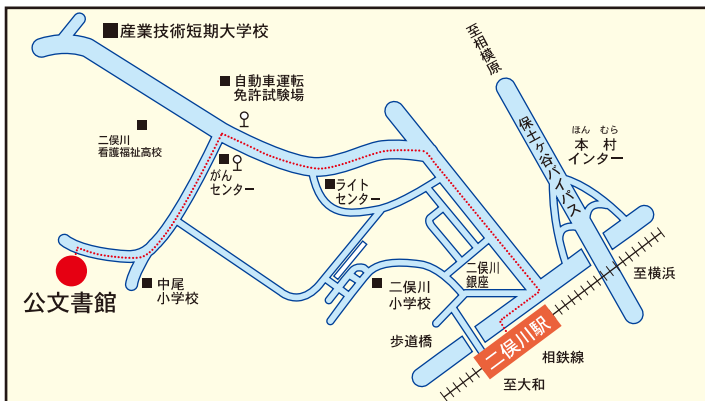
- ・「三条実美の書簡」  
九月一三日(木)～一〇月三一日(木)
- ・「横浜市の集団学童疎開」  
一月九日(金)～二月二五日(火)
- ・「岩倉具視の書簡」  
一月一〇日(木)～二月二九日(金)
- ・「占領期の学校」  
三月七日(金)～三月三〇日(日)

★常設展示

- ・四月一七日(火)～三月三〇日(日)
- ・「神社明細帳の世界」
- ・「国鉄鶴見事故」
- ・「アーネスト・サトウの書簡」
- ・「井伊直弼の書簡」
- ・「周布公平の書簡」

※講座のご案内

- ・古文書解説入門一日講座(定員五〇名)  
一二月二日(日) 二宮町
- ・古文書解説入門講座(定員一四〇名)  
二月三日(日)～三月九日(日)の各日曜日(全六回)



※館利用のご案内

**(利用時間)**  
 閲覧室↓午前九時～午後五時  
 会議室↓午前九時～午後九時  
**(利用方法)**  
 閲覧室↓開架されている資料は自由に閲覧できます。また、書庫内の資料は受付に請求して下さい。

神奈川県立公文書館だより(第十八号)  
 平成十九年九月三〇日発行  
 編集発行 神奈川県立公文書館  
 〒二四一〇八一五  
 横浜市旭区中尾二一六一  
 電話 〇四五(三六四) 四四五六

電車の場合 相鉄線「二俣川駅」(横浜駅から急行で11分)下車/徒歩17分又は相鉄バス「運転試験場循環」行きで「運転試験場」下車徒歩3分  
 車の場合 「保土ヶ谷バイパス」本村インターから6分